

チャレンジ！！オープンガバナンス 2022 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名 （注1）	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
	-（事務局用）	公民連携による横浜版地域循環型経済（サ－キュラーエコノミーplus)の推進	横浜市
チームがつけたアイデア名 （公開）（注2）	境遇 Hushtag		

（注1）地域課題名は、COG2022 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名 （公開）	境遇 hushtag 連絡協議会		
チーム属性 （公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	2	
メンバー数 （公開）	5名		
代表者 （公開）	太田 啓介		
メンバー （公開）	鴨下琳斗、中山圭太郎		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2022_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2022 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin_cog2022@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示－非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認

○

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、対象とする課題解決のために、何をする社会的な活動（サービス）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなわくわく感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題の要点はこれ！をごく短く書いてください>

横浜市が指針としているのは「サーキュラーエコノミーplus」です。「サーキュラーエコノミーplus」は、「ひと」と「まち」の持続可能性とエンパワーメントにも着目し、総合的にプロモーションするための社会経済モデルを構築します。そのために、すべての「ひと」と、「まち（の制度）」に 境遇ハッシュタグを付与して、SNS や町のポータルサイトで、人と人・人と制度が、必要になったとき、すぐにアクセスできるようにする活動です。境遇 hashtag 連絡協議会は、人と制度に付与する 境遇ハッシュタグのリストアップ・共通化をほかの自治体と連携する活動です。

<この課題解決のために「何を」するアイデアか、それを「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」するかをわかりやすく書いていきます> <アイデアが具体的に実行される場面を想定してください。>

<よいアイデアを生むには関連データの分析確認とデザイン思考によるアイデアを使う人への共感が必要です>

このプロジェクトの主宰の太田です。私は、車椅子利用者です。双子の弟です。19 歳です。

今年から 18 歳が成人になりました。18 歳が成人になってよかったこともあるけれども、自分自身で

判断しなくてはならないこともできました。今年から（18 歳成人の）制度が変わったので、まだ適切なアドバイスをして

くれる先輩がいないと思います。また、車椅子利用者であることも特徴で、いろいろな福祉サービスを

利用でき、お世話になっている反面、選択肢が多く、目まぐるしく時代と環境が変わるなかで、

適切なアドバイスをしてくれる方に出会うことも難しい状況です。

そこで、境遇 Hushtag の仕組みを創発しました。SNS では自分のプロフィールに、統一された境遇 Hushtag を

入れておくと、同じ境遇の人に出会うことができます。まちのポータルサイトなどには、福祉サービス・助成金・補助金など

に対象となる境遇を示した境遇 Hushtag を入れておくと、支援制度に容易にアクセスすることができます。

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

<このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます>

<先の（1）で書いた「何を」「誰が」「いつ」「どこで」「どのように」というアイデアの内容を支えるための、「なぜ」このアイデアがいいのか実現したいのかを上記のデータを示しつつ書いていきます>

私は、日々、同じ境遇の人（車椅子利用者で、双子の弟で 19 歳の人）と出会うことができれば、
相談できるし、議論できるし、乗り越えてきたことを共有できるし、よいと考えています。私は 私が

車椅子利用者であることを知ってもらいたいし、いろんな方と知り合いたいと思っています。

そこで、境遇 Hushtag の仕組みを創発しました。

SNS では自分のプロフィールに、統一された境遇 Hushtag を入れておくと、

同じ境遇の人に出会うことができます。まちのポータルサイトなどには、福祉サービス・助成金・補助金など

に対象となる境遇を示した境遇 Hushtag を入れておくと、支援制度にアクセスすることができます。

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

<アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきまず>

<以下のように分けて書いていきます>

1. 実現する主体
2. 実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. 実現にいたる時間軸を含むプロセス

■『境遇 hashtag 連絡協議会』を発足します。

『境遇 hashtag 連絡協議会』は、境遇ハッシュタグの維持管理運用を行います。

* 日本語として語彙を統一することや、ハッシュタグの選定を行います。

* 情報リテラシー上の検討も行います。

(例)

境遇ハッシュタグ #双子の弟 はオープンにしたい人は活用したいと思う、と思います。

境遇ハッシュタグ #車椅子利用者 はオープンであってよい人は活用したいと思う、と思います。

しかしながら、

境遇ハッシュタグ #鬱 は一般的にオープンにしたくないかもしれません。

境遇ハッシュタグ #18 歳成人 は、今年から制度変更によってつくるべきタグです。

境遇ハッシュタグは、制度変更や、時代背景によって、追加・更新が発生します。

* 地域を越えて（横浜市以外でも）境遇ハッシュタグが活用されるよう、年 2 回ほど導入自治体が集まり、ハッシュタグの更新会議（主にオンライン会議）を行います。

■境遇 Hushtag 導入システムの拡充

* SNS（クローズドの SNS も含む）で、境遇 Hushtag が利用されるよう困っている利用者に、PR していきます。

* 自治体のポータルサイトなどのシステムにも、境遇 Hushtag で検索ができるよう、提言していきます。